



有松まちづくりの会役員会（5月23日）

竹田会長から総会への謝辞が述べられ、今後30年を見据えて活動に取り組んでいくことを皆で共有しました。

6月11日、12日に新潟で開催される全国町並みゼミには竹田会長、服部顧問、藤枝副会長が参加されることになりました。

町並み相談会より、町並み保存地区にある貸店舗の改装などについて、地主さんや業者の方にできるだけ初期段階で町並みを守っていただくよう伝え、住人も一層の目配り、情報収集に努めることを申し合わせました。



祇園寺前 椿と二代目松

有松まちづくりの会総会（5月19日）

本年度も新型コロナ感染予防のため、来賓はお招きせず、講演会も中止で総会は実施されました。竹田嘉兵衛会長の挨拶後、以下の議案が審議され、拍手により承認されました。

議案は次の通り。

- ・ 第1号議案 令和3年度 事業報告並びに収支決算報告・監査報告の承認 挨拶する竹田会長
- ・ 第2号議案 令和4年度 事業計画並びに収支予算案の承認 (中央)



なお総会后、名古屋市歴史まちづくり推進室より”令和4年度有松事業”の説明がありました。

- 1 日本遺産事業： 令和4年度以降は文化庁の補助金はない。令和6年度の再認定に向け、自走化した継続的な取り組みが必要である。地元実施事業に「日本遺産」の冠をつける、等々
- 2 岡家住宅保存化活用計画： 日本遺産ガイダンス施設として整備するため、令和4、5年度に立案する。建物の文化的価値を明らかにし、保存・復原する部分と範囲・方法を定める。
- 3 岡家住宅を活用したイベント： 国際芸術祭期間中以外で実施する。回遊性を持たせた事業。
- 4 有松歴史的建造物利活用調査事業： 空き家調査や観光ニーズ等の調査を実施する。

有松日本遺産運営協議会・実行委員会（4月27日）

3年に渡る日本遺産事業の終了に伴い、その報告と今後の計画についての話がありました。それに先立ち、竹田会長(挨拶文掲載)と名古屋市歴まち室 室長野口氏からあいさつをいただきました。

- ① 令和3年度の事業報告：〔歴まち分〕16中15事業を実施。今後は自走化が求められる。
〔観光推進課分〕名古屋グランパスやBEAMSとの共働で「日本遺産の巡り方」パンフを作成。
- ② 令和4年度以降の事業：〔歴まち分〕各種イベントで日本遺産ロゴマークを活用してほしい。
〔観光推進課分〕各イベント開催支援のほか周遊施策(7/下~10/上)や名鉄キャンペーン等実施。
- ③ 岡家住宅での事業：〔歴まち分〕令和4・5年度は岡家住宅保存化計画を立案。

本年度、岡家住宅を会場とするイベント実施。

絞り鯉のぼり 東海道沿いに展示（4月下旬～5月8日）

3年目となる絞り鯉のぼりの展示が行われていました。今年は行動制限のかからない中、天候にも恵まれたこともあって、街道にも絞会館にも多くの人出が見られました。



展示風景



「ありまつ舎通(つなぐ)オープン（4月30日）」

何とも興味深い名前のお店が歴史ある外屋の建物の一角に开店しました。重伝建・日本遺産と東海道沿いはきれいに整備され、より多くの人々の目に触れるようになった有松の方向性が頭をよぎる中、このお店の今後が注目されます。

开店イベントは次の通り。

- 4/30(土) 豊明福社会「メイツ」版画作品展・弥栄：餅つき
- 5/3(火) KANAMORIN「ライブいけはな」パフォーマンス
- 5/5(木) 「ありまつ寺子屋」講師：大西義彦・安保成子

記者が訪れたのは5日。代表のお一人福井久美子さんに設立の思いをお伺いした。「有松が大好き。この町を繋いでくださった人たちの篤い思いが感じられる。より多くの人々が思いに触れてほしい。そのきっかけとなる場としてギャラリーと喫茶店を開くことにした。有松には江戸から続く文化がある。ものづくりと人、人と人をつなげていきたい。町並みや絞りの素晴らしさを、知らない人に伝えたい。今後、絞り体験会を実施したい。共感できる仲間と活動を進めていきたい」との事。

《ありまつ寺子屋～端午編～オトナのための「こどもの日」》

安保成子(絞り作家)

有松絞りの会社に勤務後、現在ABO NON KIKAKUを主宰。有松絞りの無限の可能性と現代のライフスタイルに生かすべく企画制作を行っている。講演では、参加された国際絞り会議での学びや世界・日本での絞りの歴史を簡潔にお話しされていた。その後、ご自身の作品を紹介された。中でも「青海波」の絞りによるジビエレザーの椅子には興味を惹かれた。

(右写真)



大西嘉彦(大西人形本店)

明治創業、東海地区最老舗の節句人形専門店大西人形店5代目。講演は「知っておきたい端午の節句」。誌上で一部再現。

①五月人形、今は鎧兜が主流だが前は武者人形や鍾馗。兜飾りの角を鍬形というが、似た形からクワガタムシと命名された。



②江戸時代の鯉のぼりは黒一匹だけ。明治になって赤い緋鯉が加わる。童謡「こいのぼり」の歌詞から子供。お母さん鯉は昭和37年登場。

日本遺産の町 有松をPR in徳島・藍住町 (3月13日)

有松と同じく令和元年度に日本遺産に認定された徳島の藍住町を訪れました。「集え！藍の魅力！」をテーマとしたクラフトマーケットが開催されている藍住町総合文化ホールで、有松の絞りや山車まつり・町並みをPRしてきました。

藍住町は徳島県内他の8つの市町村と共に認定された日本遺産の地で、藍染めの本場です。ワークショップでは、有松から同行した高橋瞳さんによる手蜘蛛絞の括りが1つ入ったハンカチに、参加者が縫いの絞りを施し、本藍染矢野工場 矢野藍彦さんのご指導で本藍染を行うという夢のような企画でした。会場には矢野さんがかつて有松の絞りとコラボした神々しい藍染の着物なども展示されていました。

また、こんせいさんご夫婦の手ほどきで実施された化学染料による雪花絞りの体験会では、その手軽さと出来栄の美しさに参加者は驚嘆の声を上げ、リピートされる方も多々おられました。

企画運営の中濱さん、クリエイターの水口さんを加えて6名で伺った藍住町訪問は充実した時間でした。(加藤明美)



ワークショップの様子



高橋瞳さん(左)

有松町並み保存の歩み 竹田嘉兵衛氏

日本遺産実行委員会での挨拶で、竹田会長は50年に渡る有松での町並み保存活動を振り返りました。改めて地元有松の皆さんの努力なしには重伝建選定・日本遺産認定もなかったことに気づかされました。

昭和48年(1973)に出された「訴えます」(有松まちづくりの会準備会)のチラシから有松での町並み保存の運動が始まった。有松は町並み保存という考えを最初に言い出し、翌年「町並み保存連盟」が設立された。その後町の区画整理があり、国際絞り会議が開かれ、有松駅北側の開発、有松線の整備も・

中舛竹田家の取り壊し騒動もありましたが、3日前に止める事が出来た。平成18年(2006)～平成25年(2013)の無電柱化は有松の景観向上とともに有松の価値を認識するきっかけになった。5年の審議の後、平成28年(2016)有松の東海道沿いの町並みは重要伝統的建造物群保存地区に選定され、さらに日本遺産の認定となった。

とりわけ前会長の服部豊氏は凄まじい勢いで日本遺産の認定に向け邁進された。「これを機に更に素晴らしい有松にしてくれ」との思いで、我々に申し送ってくださった。このようなバックグラウンドの中で日本遺産事業が行われてきた。

訴えます

朝日新聞の記事や総祭の日のビラでご存知の方も多と思いますが、去年10月、「有松・まちづくりの会」準備会が生まれました。

私たちの町・有松は、有松絞とともに、当時の繁栄ぶりを残すすぐれた文化遺産に恵れています。どっしりとした厩根、白壁、格子などに象徴される江戸時代の町屋建築の数々は、全国に誇るべき私たちの町の宝です。じっさい、一部の学者などは高く評価し、文化財も保存すべき歴史的景観の中の有力候補に推しています。

でも……。誇るべき古い家々もじっさいに暮していくとなると、たいへん不便なものです。その上、都市化の波の中で、新しい家もどんどん作られ、古い家は自然に壊されていきます。こんな私たちの町の「流れ」を自然のままに放っておいてよいのでしょうか。名古屋女子大学などのグループが46年、私たちの町でおこなったアンケートによると、

約8割
しか
そこ
境がつ
うのが

昭和48年2月

「有松・まちづくりの会」準備会

発起人 川村 緑之助 久野 信三郎
小島 豊枝 後藤 普三
竹田 嘉兵衛 服部 孫兵衛
久田 馨義 山田 耕之助
(アイウエオ順)



無電柱化

← 工事前

工事後→



有松文芸のこみち⑦ 山村幸雄

有松旧東海道沿いに歌碑が7基ある。

今回は祇園寺前にある梅屋鶴壽の歌碑を紹介する。

『 あり松の 柳しばりの 見世にこそ
しはしと人の 立ちとまりけれ 梅屋鶴壽 』

作者 梅屋鶴壽 (うめのや かくじゅ、1801~1864)

幕末の狂言師。享和元年(1801)江戸神田佐久間町に生まれる。姓は諸田、通称は始め佐吉、のち亦兵衛と称した。秣(まぐさ)を商い、尾州家の御用を務める。

若い頃から狂歌を得意とし、初めは長屋姉子、または松枝鶴壽とも号したが、後に長谷川町に待合茶亭、梅の屋を出し、梅屋鶴子(うめのや かくし)、梅屋鶴壽というようになった。狂歌人物誌に「花町戯場のことをよくうがちて秀吟おほし。本町側糸巻連の魁首にして其名四方に鳴る」とある。老後には号を秣翁とも言うようになった。

元治元年(1864)享年63歳で亡くなる(元治2年の説もある)。

辞世吟 『 つまづくが 最後この世に いとまごい ひまゆく駒の おくり狼 』

〈設置のいきさつ〉

平成20年(2008)有松開村四百年を祝し、桶狭間幕山の高津修市氏が緑ライオンズクラブの協力により7月に建立。

歌の選択について、高津氏は有松の文化の香りを少しでも高めようとこの歌を選んだそうです。



祇園寺前の梅屋歌碑

第38回 有松絞りまつり 開催予定

日時 2022年6月4日(土)~5日(日) 9:00~17:00

場所 有松旧東海道一円(名古屋市緑区有松)

[スペシャル・プログラム] ※ 詳しくは右チラシをご覧ください。

- 有松絞りパレード:絞りを身に着けて参加しよう!地元の音楽隊と一緒に旧東海道を練り歩こう。申込不要/6月5日(日) 11:00/集合:絞会館・祇園寺
- SDGsブース[染め直しや看護体験]:捨てられた繊維をエコバックなどにする染め直し。健康チェックや看護体験(南医療生協)。受付/中町交差点
- 名古屋グランパス・スタンプラリー:有松内のスタンプを全て集めてグランパスメモ帳と大祭典応援Tシャツをゲット! 受付/山中歯科駐車場
- 国際芸術祭出展作家ワークショップ:7月30日から開催される国際芸術祭「あいち2022」の有松地区での参加作家・宮田明日鹿さんのワークショップや開催PR。会場/旧山田薬局



訂正 4月5月号記載の日本遺産シンポジウムパネリスト・村瀬さんの名前表記に誤りがありました。正しくは 村瀬弘行 さんです。お詫びして訂正いたします。

催事・行事の予定

6月4日(土)5日(日) 9:00~17:00 第38回有松絞りまつり 有松東海道一帯

新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催を中止する場合があります。

6月20日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン

6月26日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会

6月27日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン

発行者 竹田嘉兵衛 (有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤 明美 (有松まちづくりの会 広報部員)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。

